

Yamakado News Letter



開花数が増えたミツガシワ ユキバタツバキは大豊作



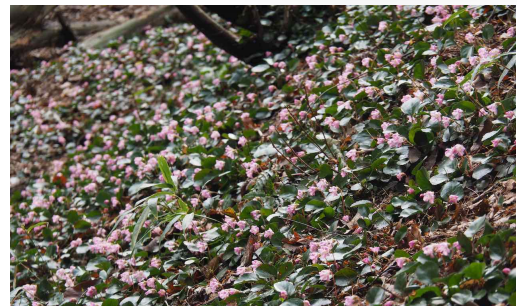
南部湿原の様子 4/24

南部湿原のミツガシワは、シカ食害被害により2011年には開花数が数株まで激減しました。以前より食害は確認されていましたが、開花数が数株というショッキングな事態を受け、その年より南部湿原を防獣ネットで囲う対策を開始しました。

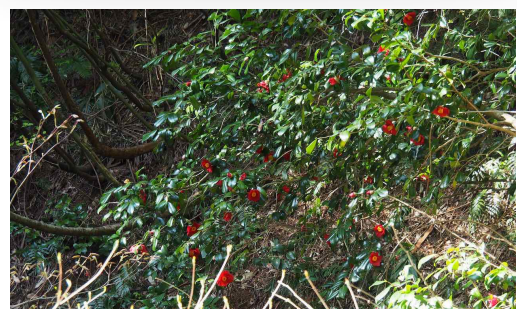
こうした防獣ネットは設置すれば自動的に効果が出るものではありません。シカは夜な夜なネットを食い破って侵入します。時にはネットに掛かって大暴れをし、ネットそのものが破損します。そうしたことが不規則に起きるので、日々の見回りやメンテナンスを継続しなければ効果は維持できません。こうした活動は野生動物管理のうちの「被害管理」と言われています。被害管理を継続して、今年で10年です。10年後の南部湿原が上段の画像です。この画像には10年続けられた管理の苦労は写っていませんが、そうしたことも想像しながらご覧頂ければ幸いです。

今年は例年になくユキバタツバキが多数の花をつけました。それも一つや二つの株ではなく、多くの株で多数の花を咲かせているのが観察できました。また、昨年はマルバアオダモの開花を観察できなかったのですが、今年はあちらこちらで満開の様子が観察できました。この木は雌雄異株とも雄性両全性同株とも解説される、ちょっと変わった植物です。昨年も花の観察を試みたのですが、開花した株を見つけられなかったのが、今年も注目していた植物です。一方で京都の芦生ではブナの豊作が伝えられています。山門水源の森では、どちらかといえば凶作のようです。

温暖化によるものか、春の花々の開花は早くなっているようです。2年続けて暖冬の後、今季はまとまった積雪がありました。また2014年から続けているシカ捕獲により、個体数密度も随分下がりました。そうした自然観環境の変化、また植物の開花周期、人の関わり方など、複雑な要因が今年の春の様子に現れているようです。



ピークを迎えたトクワカソウ 3/29



今年は開花数が特に多かったユキバタツバキ



昨年は開花が確認できなかったマルバアオダモ

今季より北部湿原もAFネットを設置。 支柱の沈み込みも改善

今年度から北部湿原もAFネットを設置することにしました。そこで既存のネットは撤収したのですが、その様子は3月度のニュースレターに記載した通りです。

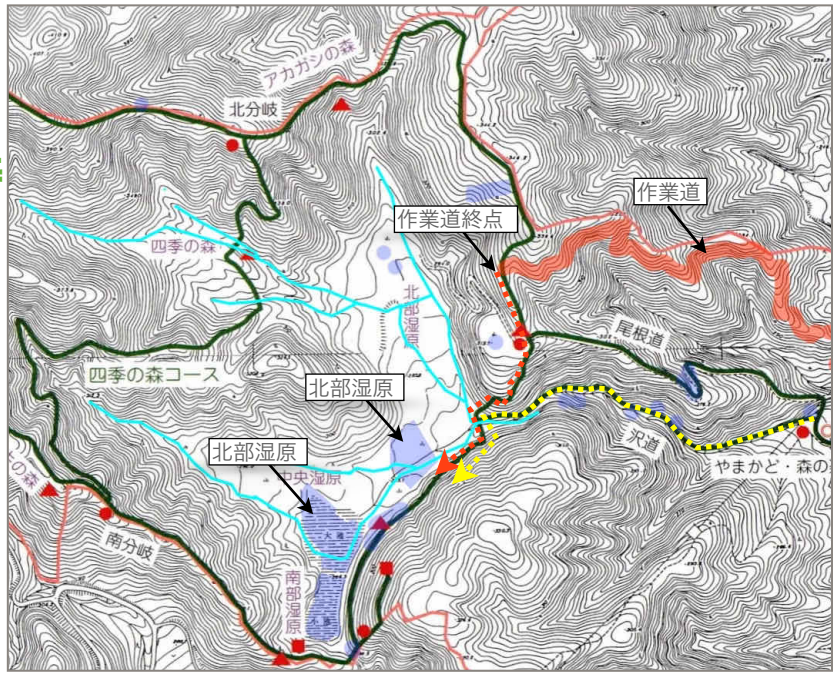
AFネットは網目が細かく頑丈ですが、その分資材の重量も増します。作業道を天然更新試験地手前の散策コースまで開設できたことで、終点までは車両で運搬できるようになりました。そこからは歩荷です。以前は地図黄色破線の経路を運び上げていましたが、赤破線の経路を運ぶこととなります。距離も短く、コースも登りから下りに変わるので、歩荷は重作業ですが随分楽になりました。

一方、湿原は地盤が緩く、立てたAFネットの支柱が地面にめり込んで、高さ2mを維持できなくなるのが課題でした。そこで中心に支柱の芯材が通る45cm角の板材を作成し、それを支柱の下に敷くことにしました。板は138枚作成し、北部湿原と中央湿原の既存のAFネットの支柱下にも敷きました。

資材の運搬や作成は4月1日から開始し、5月1日の会員保全作業日に設置を完了しました。この間、のべ29.5人が作業に関わりました。

また、同時進行で何か所もあるササユリの防獣ネット設置、スズメバチ対策のハチトラップの管理、山頂付近のササ防獣ネットの管理、例年にないユキバツバキの開花を写真撮影記録する作業、積雪による倒木が多数発生したユキバツバキ群生地の整備など…、今月は多数の作業をこなしてきました。

どれもこれも、雪解けから芽吹きまでに対応が必要で、後回しにはできない作業です。いつか人手が必要ですが、今年度からの新規参加者も増え、保全作業の人手も充実してきました。有難いことです。



沈み込み防止板を作成



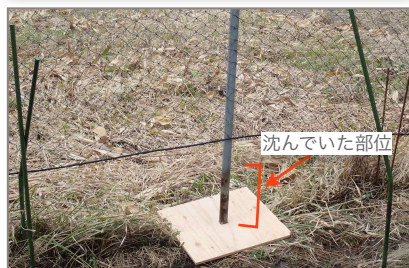
終点まで車両で運んだAFネット資材



終点から湿原までは歩荷



湿地は柔らかく、支柱は簡単に沈む



沈んでいた部位



板の上に支柱を立ててネットを掛ける



ネット下部はトタンで囲う



トタンをイボタケで挟み、結束固定